

2018 実習前期レポート

今学期はウィンチェスターの留学生に日本語の授業を行った。思い返してみると、困惑と反省の連続だった。授業構成時には、どのようにしたらわかりやすいのか、どのようにしたら楽しんでもらえるのか。ペアの人と時間が合わない、意思疎通がうまくいかない。授業中には、教案通りにいかない。など思うこと山ほどあった。

まず、初めに自分を客観視して思ったこと。一番初めの授業ではどのような教案を作ればよいのか、今までの授業を参考になんとか完成させたこと覚えている。1回目のDVDを見てみると、初めての授業だったためか顔が下に置いている教案ばかり向いていた。2回目と3回目の授業ではペアが変わったことや、授業の内容によりやりやすいものとそうではないものがあり、成長した箇所は見受けられなかった。しかし、4日目5回目と授業を重ねていくにつれ、反省を生かし、困惑していたことについてどのようにしたらよいのか掴んでいった。ずっと教案を見ることが減り、教案だけでなく板書の使い方、指名のしかたなど、変容している自分が見受けられた。ただ、どの授業のDVDを見ても声の大きさやトーン、顔を上げているときはしっかりウィンチェスターの留学生の顔を見ていたという2つの点は良かったと思う。より良くなるためには、教案を頭に入れて常に学習者の顔を見ると尚良いと思うので、後期の授業で生かせるように努力をする。

次に、授業中に感じたこと。今学期は3人のウィンチェスターの留学生がいて、それぞれ授業に臨む姿勢や、理解度など違ったため、困惑したことが多々あった。1人は、突発的に発言をしていき完璧に理解をするまで聞き、1人は、1人は、発言をするのに恐れているというスタイルだった。そのために教案通りの時間内に終わらなかったり、指名する順番を考えたりと苦勞した。時間に関しては今学期の授業で変容できるほど力はつかなかったが、指名に関しては、留学生がかなり理解している状態ではランダムに指名し、理解しているか曖昧な状態ではどんどん発言をしてくれる留学生を1番に指名して他の2人に明確に理解をさせるというやり方で指名をした。そして授業を繰り返していく中で感じたことは、リアル教材を使うと授業に対する姿勢や反応が良いことと、ロールプレイングにて演技をしっかりと行えば反応が良いということ。やはり、リアルな教材を使うとそれだけで楽しくなるうえに、授業に鮮度があり授業をしている自分も楽しめる。それを利用して、いかに楽しく日本語を学んでもらえるか今学期の授業内で工夫をした。ロールプレイングで使用したフレーズはいつまでも記憶に残るため、何度も使用した。その結果最後の最後まで「あの～、、トイレはどこですか。」というフレーズを覚えてくれた。実際に使ったフレーズは、言語が通じた喜びなど自分自身の自信につながるため、言語学習には良い方法だと思う。今学期のこの経験を生かして、後期の授業にも取り入れていけたらと思う。しかし1点解決しなかったのは、1人が発表しているときに他の留学生の聞く態度が良くなかった。自分自身にも当

てはまることであるが、自分の番が終わったらどうでもよくなる。これは今学期の留学生だけでなく、後期の学習者やその他の人たちにも当てはまるであろうことだが、1人が発表しているときの他の学習者の態度をどうするか、それが今後の課題である。

そして最後まで悔いが残ったことは、時間である。自分以外3年生ということや、自分自身に空いている時間が少ないことにより、ペアの人と時間が合わなかった。よって、息が合わないときや、自分のしてほしかったことが伝わってなかったことなど様々な問題があった。この件に関しては最初から最後まで変化がなかったので、後期では時間を何としてでも作り、時間に関して悔いのない授業を作り上げたい。

自分達の作った授業を行った後に、シートを使ってひらがなとカタカナの指導を行った。教えたウィンチェスターの留学生が優秀だったことと、以前オーストラリアで日本語を教えた際にひらがなとカタカナを教えた経験があったため、自分の中ではリラックスして教えられた。ただ、一つ一つを丁寧にこなし過ぎて、ら行わ行にじゅうぶんな時間をとることが出来なかった。他の人達を見ると、いくつかの書く練習の箇所をとばして、最後の方の授業でまとめて復習として書かせていた。そのようなやり方があったのだと感銘を受け、次回そのような機会や、似たような機会があれば、シートの上手な使い方をしようと思う。

後期の授業では、環境がガラッと変わるので、早く適応していきたい。良かった点はもっとより良くなるように、悪かった点は改善していけるように学ぶことをしっかり意識して、そして、今学期で悔いが残った時間が足りなかったということを後期で挽回し臨もうと思う。環境が変わるため、また多くの困惑があるだろうが、今学期の授業の自身の成長を思い出しながら1つ1つの授業を作り上げていきたい。